

2012（平成24）年度 京都大学 入試問題 文系 第2問 解答例

問一

文章の表現に働く以前に、小説全体の効果を考えて書く必要のある事柄のみを選定しようと働く、作家の意欲。

問二

小説の表現は、一般の文章同様、明快適切が要諦であるが、効果的に小説全体を明快簡潔にするという重要な意欲のため、各個の文章を故意に晦渋にする場合もあるということ。

問三

日常的な言語使用では、現実そのものをありのまま眼前に提示して伝達するための手段がないので、実物を指し示す代替物として言葉を用いて説明しているということ。

問四

芸術家は、各人の感覚や理性を通して受容した、各人固有の真実である人生の現実像に駆り立てられて、創作を行う。その際、自己が学び自由に駆使することのできる芸術上のあらゆる手法を用い、自己の現実像を再現し、他者に納得されるだけの創造を行いうる人である（と筆者は考えている）。

問五

小説全体の効果を考え、必要な事柄のみを選定して書き、表現を故意に晦渋化することもある点に、小説の文章の特殊性がある。なぜなら、小説は現実そのままを写すものではなく、各作者固有の現実像を他者に対しても実在しうよう再現するために創造された芸術だからであるということ。